

タンチョウと鶴舎

岡山後楽園には、タンチョウ、マナヅル、ナベヅルをはじめとして、江戸時代（1603年～1867年）から様々な種類の鶴がいます。これらの鶴は園外には出されませんでした。日中は園内を歩きまわることができました。これらの鶴は、第二次世界大戦の終戦時には後楽園から姿を消していましたが、戦前に岡山で高校時代を過ごした中国の詩人で、考古学者、さらに政治家でもある郭沫若氏が園に新たにタンチョウを寄贈しました。鶴舎の隣には、郭氏が残した詩碑があり、寄贈の理由を伝えています。

後楽園が受け取った鶴は2羽とも雌でしたが、タンチョウの保護に熱心な北海道の釧路市がこの2羽と雄を引き合わせたことで、繁殖に成功しました。釧路市との協力で繁殖に力を注いだことが功を奏し、岡山は今では、タンチョウの飼育数日本一です。

タンチョウの鶴舎は園内北側の正門近くにあります。現在、8羽のタンチョウがおり、そのうちの6羽は屋根が開放された鶴舎で観察できます。9月から2月の期間は、決まった日に鶴舎から放され、園を自由に飛んだり歩いたりしています。また、お正月のお祝いの間も、幸運の証として放されます。タンチョウが園内に放されている時に、時折その鳴き声が聞こえてくることも珍しくありません。